



高村 智 議員

質問1 浜分地区の入浴機会の影響による今後の考えについて

市長 暫定的に市民活動バスせせらぎ号の利用希望調査を検討

問 七重浜8丁目にある「天然温泉七重浜の湯」が9月末をもって閉店することになりました。

スパピーチとしてオープンして以来、地元で行楽スポットとしてたくさん賑わいがありました。

様々な事情があるとは思いますが、閉店になることは、市民の方々に多大な影響を与えます。

そこで質問します。

浜分地区にあった温泉入浴施設が相次いで閉鎖となれば、利用していた方々の入浴機会に影響が予想されます。

既に、自宅にお風呂がない方々からは、不安の声が届いています。

また、入浴施設以外に会議や宴会場としても、市内のたくさんの方々が利用してききましたが、このような施設がなくなることですでたくさんの方々に影響が出ると考えます。

この状況を踏まえた中で市長の考えをお聞かせください。

答(市長) 「天然温泉七重浜の湯」の直近の利用状況は、昨年度の入湯税の申告に基づく入浴客数が約3万人となっております。

閉店に伴い市としては、入浴は東前の民間温泉施設やせせらぎ温泉の利用を促し、入浴以外は、東前の民間温泉施設が中規模の宴会場として利用可能であり、会議やスポーツ利用は公共施設でも対応可能であるので、用途に応じて利用を検討していただきたいと考えています。

質問の浜分地区の入浴機会の影響については、自宅にお風呂のない方や高齢者等で、移動手段がない場合に影響がでる可能性がことから、東前の民間温泉施設にバス送迎の打診をしましたが、対応が困難との回答でした。

このことから市では、暫定的な措置として、市民活動バス「せせらぎ号」を、空き状況に応じてとなりますが、浜分地区などの老人クラブに利用希望調査を行いたいと考えています。

帯状疱疹・おたふく風邪などワクチンの公費助成の考えは今後の国の審議会の検討状況を見極めた上で対応したい

問 帯状疱疹は多くの方が耳にしたことがある皮膚病です。

水痘(水ぼうそう)が完治した後も体内の神経節に隠れて免疫細胞の攻撃をかわし、何十年も潜伏するウイルスです。

2014年からすべての小児に水痘ワクチンの定期接種が始まり、水痘患者は劇的に減りましたが、その結果、帯状疱疹患者が増加していると言われています。

特に高齢者が罹患する確率が高く、全国の自治体でも、帯状疱疹ワクチンの公費助成の動きが増えています。

北斗市でも子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちづくりを推進していることから、帯状疱疹ワクチンや前にも提案したおたふく風邪のワクチンを公費助成して、市民がより安心して暮らせるまちづくりを築くべきと考えますが、市長の考えをお聞かせください。

答(市長) 定期接種及び任意接種は、自らが病気にかかりにくくなるだけでなく、社会全体でも流行を防ぐ効果があります。副反応などの問題もありますので、国の動向などを踏まえ、適切に対応していくことが必要であると考えています。

質問のあった帯状疱疹は、過去に水痘になった際、神経に潜伏したウイルスが再び活性化して、皮膚に痛みを伴う水痘を生じさせる病気です。

加齢や過労、糖尿病などにより免疫が低下することで発症し、50歳頃から発症のリスクが高くなり、80歳までに約3分の1の人が経験すると言われています。

我が国では、人口構成の高齢化や、水痘ワクチンの定期接種に伴う患者との

接触機会減少により、免疫が再活性化されるのが少ないため、患者数は増加する傾向にあります。

このことから国は、平成28年に、50歳以上を適用年齢として、帯状疱疹ワクチンを承認し、任意接種として使用されるようになりましたが、定期接種化については、国の審議会における検討が、新型コロナウイルスを最優先としているため、継続審議扱いのままとなっています。

また、おたふく風邪ワクチンについては、令和元年8月に開催された国の審議会において、安全性が期待できるワクチンの開発を企業へ要請し、副反応に関するデータを整理した上で、こちらも継続審議扱いの状態が続いています。

市としては、今後の国の審議会の検討状況を見極めた上で対応してまいります。

帯状疱疹ワクチン【シングリックス製品写真】

出典：グラクソ・スミスクライン(株)

